

Vol. 116

編集 環境パートナーシップちば
 代表 桑波田 和子
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (一財)千葉県環境財団業務部
 環境活動支援課気付
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969



だより

— つながれ ひろがれ —

平成29年度千葉県環境講座報告

今年も「サポーター交流会」からスタート！

千葉県主催の環境講座は、今年も7月9日(日)千葉県こどもエコクラブのサポーター交流会(千葉市きぼーる会議室)開催からスタートしました。

講師、全国事務局の東 尚子氏から今更ながらのこどもエコクラブ情報や「こどもには、びっくり！なんで？が必要」などのお話をいただいた後、自己紹介「好きなこと、ハマってること、最近うれしかったこと、感動したこと、やってて良かったこと、どうして始めたか」等のテーマでさまざまなお話が出ました。

次に「エコはなぜ必要？」テーマで「なぜエコ・NAZEECO？」カードゲームを実施しました。絵のカードを縦軸が大昔・昔・今・未来に、横軸が食べ物・電力・地球などのテーマで7並べ要領で並べた後、未来はどんなふうになって欲しいか、どんな未来を作りたいかを発言してもらいました。講師から「つくることができる未来は、変えることができる。サポーターが元気なら、子

もたちも元気。地球を守ることは、人間を守ること。未来は、自分たちでつくることができる。」とまとめられました。

「オススメプログラム&エコポイント！」では、奥多摩水と緑のふれあい館、牛乳パック工作、野菜ソムリエ(野菜クズをゴミにしない方法)、竹林で里山体験(幼稚園の親子体験)、自然体験教室、こどものまち、大房岬でキャンプ体験、農園で人参づくり(野菜クズで堆肥づくり)、霞ヶ関でのエコ体験(毎年夏時期に)とサポーターさんからの情報が続々出てきて、お得情報が大好評でした。

最後に、10月9日(月・祝)「こども環境会議ちば」のPRをさせていただいて終了としました。
(文責 横山 清美)



平成29年度千葉県環境講座報告

「東京湾の人工干潟を見聞」

7月24日(月)国交省の「東京湾人工干潟実験場」と千葉港湾内の浮遊ゴミと浮遊油の回収するために就航している「清掃兼油回収船べいくりん」を見学しました。夏休みということで、親子や大学生などいつもの環境講座とは違う年齢層の方々の参加もあり、満席となったバスの中で干潟についてクイズで学びながら横浜ベイエリアに向かいました。

午前、国交省横浜港湾空港技術調査事務所の担当者から、この人工干潟は10年前に護岸改修をするに当たり環境にやさしい干潟を用いた「環境共生型護岸」を造ったこと、その後の生き物調査の結果についてお話を聞いた後、外に出て人工干潟の見学をしました。生き物調査のデモンストラーションで、採取した砂の中からアサリの稚貝やカニなど、さまざまな干潟の生き物の生息を確認することができました。

午後からは、東京湾の環境についてのお話を聞いてから、ここを基地としている「べいくりん」に2班に分かれ乗船して見学しました。実際に操舵室に入り、清掃兼油回収の仕組みや装置を動かしながらの説明、ゴミの種類など乗務員の方から丁寧に説明していただきました。普段入れない操舵室では見慣れない機器にみなさん興味が尽きないようでした。油の流出事故は減っていますが、ゴミは川から流れてくる木などはもちろん、人が捨てたと思えないボーリングのボールや車のバンパー、冷蔵庫、廃船など浮いているものはすべて回収の対象になるそうです。

大雨が降ると千葉県側の河川から大量の竹や木が流れてくるお話を聞き、ここでも里山整備の必要性を強く感じました。なかなか見学できない施設で貴重な体験ができ、満足していただけただけではと思います。
(文責 谷口 路代)

20回を迎えたふなばし環境フェア

第20回ふなばし環境フェアは「みんなでつろう、地球にやさしい船橋」をテーマに6月10日、11日（20周年を記念して生物多様性シンポジウム）が中央公民館で行われ、実行委員長と松戸徹船橋市長が、願いごとを書いた短冊を大きな笹に結びつけるオープニングで始まりました。参加団体は市民団体24・事業者16・行政8・学校5団体の協力で賑やかな会場になりました。10日は約4400名、11日は105名の来場がありました。

10日、館前広場では、「ふなばしの力で減らせCO₂」の文字と船橋市の花のヒマワリとカザグルマが鮮やかに描かれた市の電気自動車が目を引いていました。例年人気の5Fのこどもイベント広場には、三番瀬のさまざまな貝殻を集めた工作、木の実や小枝を使った工作、綿の実からの糸繰り体験、懐かしい風車やマグネットと銅線を使いぐるぐる回るハートの工作などを準備して子どもたちを迎えました。地球温暖化をテーマにしている団体では、再生可能エネルギーを理解してもらうためソーラーカー、ソーラーヘリコプターなど科学工作も用意していました。ビンゴゲーム、クイズラリーも人気がありました。前年時間切れで作

られなかった工作や体験を楽しみに来たリピーターもいました。6Fの講堂では参加団体が増え、会場いっぱいの展示物に会場の方々は興味を持っているブースで話し込んでいらっしゃる姿も多々見受けられました。

環パは、翌日の生物多様性シンポジウム「今、知ろう！生物多様性—水・緑・生命と共に暮らす都市を目指して—」に合わせて、「地球のいのちつないでいこう—生物多様性ってなあに？—」でナガエツルノゲイトウの取り組みを紹介しました。

今後とも市民団体・事業者・行政と学校のパートナーシップで充実したふなばし環境フェアが継続していくことを願っています。

(文責 大西 優子)



第20回記念浦安市環境フェア出展報告

温暖化防止うらやす 川島謙治

第20回記念浦安市環境フェアが、6月25日（日）JR新浦安駅前広場で、“聴いて・見て・触って・体験しながら、さまざまな環境問題についての理解を深め「環境に配慮した賢い選択」を考える”というテーマで開催されました。当日は早朝からの大雨で開催が心配されましたが荒天中止・雨天決行の事前取り決めがあり、雨のち曇りの天気予報のもとフェアは開催されました。

NHK「おはよう日本」の平井信行気象予報士の講演「楽しく学べる気象の知識」他の環境に関わるイベントが特設ステージで開催されました。平井さんの講演後半には雨もやみ、来場者も増え例年並みに盛り上がり来場者・出展者一体となった環境フェアになりました。

暮らしのエリア8団体、ごみゼロエリア13団体、水と緑のエリア7団体、エコマルシェエリア7団体のテーマ別エリアのブースでは、メンバーが熱心に説明を行いました。また、東海大浦安高校エコクラスの中高校生他がフェア運営ボランティアとして、うちわ型の会場案内兼用のスタンプ

ラリーカード配布や、食器返却ごみステーション他の活動でフェアを盛り上げてくれました。

“温暖化防止うらやす”は、①子供たちに、生活ではエネルギーが必要なことを“手回し充電カーレース”で知ってもらい、②大人の方に、「家庭の省エネアンケート」回答で、自分にあったエコ行動の重要性を理解していただきました。アンケート回答時のインタビューでは、皆さん省エネなどのエコ活動に高い関心があること、省エネなどのエコ活動はお財布にも優しいということに関心を持っているということが分かりました。



IVUSA パワーで大成功！ 平成29年度第1回ナガエツルノゲイトウ駆除大作戦

6月18日（日）に平成29年度第1回ナガエツルノゲイトウ駆除大作戦が行われ、環境パートナーシップちばから萩原さんと小倉が参加しました。

今回のメインの作業場所は、桑納川（八千代市）で、昨年度より上流の桑納橋と桑橋（ゆわつ）の間でした。それまで、梅雨入りしても全然雨が降らなかったのに、よりによって、作業の後半は雨に降られてしまいました。IVUSA（国際ボランティア学生協会）の40人参加を含め、総勢80名のがんばりのおかげで、桑納川の中流部の巨大群落を駆除することができました。

この日の一番のターゲットは、中間地点と桑橋直下の2つの巨大群落です。重機がガバッとナガエツルのかたまりをつかみ取った後、取り残しやちぎれた切れ端をきれいに集めます。この後始末作業をきちんとやらないと、すぐに元通り（それ以上）になってしまうので、やっぱり「重機+人間+ダンプトラック」の共同作業が大事です。

このような一連の作業の繰り返しで、桑納川中流域（桑納橋～桑橋）の大きな群落は、ほぼ一掃することができました。

人力に係る仕事はすっかり IVUSA のみなさんにお任せしてしまいました。水中作業を含む群落の駆除は重機と若者、われわれ年配者は地道にシコシコと継続駆除、というように、仕事の分担の仕方がだんだん分かってきました。

8月10日～12日には、今年も神崎川でIVUSA主催の「印旛沼クリーン大作戦」が行われ、今年は100名もの大学生さんが全国から来てくれるそうです。11日には地元的一般市民や学生さんもお誘いしています。若い人たちがナガエツル駆除というかなりの重労働を、にぎやかに楽しみながらやってのける姿は、見ているだけで元気をもらえます。夜にはバーベキューで交流会も計画されているので、ぜひご参加ください。

（文責 小倉 久子）



「美浜マルシェ」に参加しました

千葉市美浜文化ホール会館10周年記念事業「美浜芸術祭」が7月1日（日）、文化ホールでは音楽祭が、そして隣の真砂中央公園では「千葉マルシェ」が開催されました。公園の野外ステージではバンド演奏やダンス、太鼓の演奏披露があり、漫才コンビによる司会で大いに盛り上がっていました。

マルシェの出店は、軽食や雑貨小物の販売、子ども向けゲームコーナーなどがありました。その中で環境パートナーシップちばは、コマづくりのワークショップを出展しました。身近なペットボトルキャップと空き箱の厚紙を利用し、素朴なおもちゃの定番、コマを作るというものです。丸く切った厚紙に絵を描くことにしばし熱中、コマに仕立てて回転した絵柄の見え方に驚き、遊んだあとは、資源として回収ステーションに出してね、とパネルと口頭で環境教育の要素もちょっぴり入れ、最後に県民のための環境講座の宣伝もしてと、盛り込んだ内容となりました。

コマづくりに、自発的に関心を持つのは小学校低学年が中心でしたが、幼児も誘うと楽しそうに

お絵かきをし、コマ回しを喜んでいるようでした。

ワークショップでの子ども達との交流は、とても楽しいものでした。

ある5歳の男の子は、コマづくりがあって本当によかったと何個もコマを作り、おしゃべりを楽しんでいた。満足げな表情がとても可愛らしかったです。

「遊び終わったら、資源として回収拠点に出してね」ということが子どもには「え！せっかく作ったのに、捨てる！？」と驚かせてしまった感もありました。作ったばかりのコマをその場で手放すことを話すことが性急だったようでした。もう少しソフトな表現や方法を検討することが今後の課題です。

（文責 中村 明子）



エコメッセ 2017in ちばにおける交流会活動について

エコメッセちば実行委員会広報・交流部会長 谷合 哲行

エコメッセちば実行委員会広報・交流部会では、ここ数年テーマ別の交流会を実施してきました。2017年度は複数の団体から要望があった2つのテーマに絞って交流会を実施いたしました。2017年5月27日に第3回集まれ海辺・水辺の仲間たち、2017年7月8日に第4回農業・福祉・エネルギー交流会をいずれも千葉工業大学新習志野校舎で開催しました。

第3回集まれ海辺・水辺の仲間たちは2016年度の後半に東京湾大感謝祭実行委員会と協働で「SATOUMI & SATOYAMA へ行こう!!」というイベントに協働出展したことや、これまでの活動では東京湾を中心とした”海辺”を活動場所とする団体が中心となっていましたので、湖沼や水辺を活動の場とする団体の関係者にも参加していただきたいと思って企画いたしました。しかし、今回は東京湾大感謝祭実行委員会の方が参加できなかったことや、大潮の時期で海辺系の活動をしている団体が軒並みフィールドワークの活動日と重なってしまったこともあり、参加者数4人の大変小規模な会になってしまいました。討論の中でも市民団体の活動継続の難しさや深刻化する担い手不足の話が取り上げられました。中学生・高校生の間では、フィールドワークを含むボランティア活動が行える団体の必要性は高く、新しい切り口の環境学習の場を作りだす必要があることが指摘されました。

農業・福祉・エネルギー交流会は、テーマ交流会の中でも最も長く続いている会で、今回も7団体9人が参加して活発な議論が行われました。昨年までは農業と再生可能エネルギーを組み合わせたソーラーシェアリングに関わる団体が主体となって、それぞれの活動場所での事例報告や情報交換を行う場を提供してきました。2017年3月には匝瑳市で1メガワット規模のソーラーシェアリング事業が実現し、大変注目を集めました。

再生可能エネルギーを普及させてゆくことは、パリ協定でも明示されている世界の潮流ではありますが、その実現のためのプロセスは決して平坦でもなければ直線的でもないことが浮き彫りになってきています。再生可能エネルギーについても、次のステップにつながるブレイクスルー技術が求められており、いくつかのアイデアが紹介されました。一方、福祉と農業の連携も”農福連携事業”として注目され各地に広がりましたが、障がい者を安価な労働力として慢性的な人手不足に悩む農業に従事させたり、企業の障がい者雇用枠の充実に利用したりという思惑も垣間見られ、実際に障がいを持っている方々の自立や生活の支援につながっていないケースも見られるようになってきます。

今回の交流会では、全ての方が自らの能力を最大限に発揮して、健康で文化的・自立的な生活を営めるようにするにはどうすればよいか、という大変大きな命題や、3.11をきっかけにいつでも起こりうるリスクとなった自然災害に備える防災と被災地での障がい者の支援や保護との両立についても取り上げられました。

エコメッセinちばは、年に1回1日のイベントですが、千葉県周辺における環境問題や地域の環境改善・環境保全につながる活動をしている企業・行政・市民団体・教育機関などの活動を直接見聞きして体験的に知ることができる重要な場となっています。出展団体間の交流の機会としてスタートした交流会ですが、今後はその活動のあり方や方向性を再検討する必要があると考えています。

各交流会の詳細はエコメッセちばのホームページにも掲載されていますので、ご参照ください。



第3回集まれ海辺・水辺の仲間たちに出展された透明二重染色標本
(左:ランチュウ、右:イソギンチャク)



第4回農業・福祉・エネルギー交流会に出展されたバッテリー制御システム

手賀沼の「水の館」がリニューアルオープン

手賀沼親水広場「水の館」は千葉県の水環境啓発施設として、平成3年に作られました。当時の手賀沼の水質(COD)はずっと全国ワースト1の記録を更新中でしたが、私もエコマインド養成講座などで何回も水の館で環境学習を行ったことを、なつかしく思い出します。

この施設が、平成28年に県から我孫子市に移譲され、1年間のリニューアル工事を経て、平成29年6月にオープンしました。

大きく変わったのは、1階に農産物直売所「あびこん」とレストランができたこと、3階にあった研修室(ホール)は、半分は我孫子市役所の事務室になって、残りの半分が「研修室」として残ったことでしょうか。プラネタリウムは引き続き上映されていますが、有料になったようです。

水環境啓発施設としての目玉は、1階の「手賀沼ステーション」。展示内容は一新されました。今まであった台所の模型などは、もちろん?撤去です。もう、生活雑排水が・・・という時代は終わったのでしょうか。「手賀沼ステーション」には鳥(本物ではなくカービングの鳥たち)をはじめとする

いろいろな生きものが展示されていました。大きな水槽での魚の展示がなくなってしまったのがとても残念ですが、維持管理に手間がかかるので、展示が取りやめになったと聞いています。

私が「水の館」に行った6月10日は、オープン直後の土曜日ということもあって、農産物直売所もレストランも、たくさんの人でにぎわっていました。もう「きたない手賀沼をきれいにしよう!」という時代から、「手賀沼に遊びに来て、農産物を買って帰ろう」という時代が変わってきたのだな、と感慨にふけたことでした。

(文責 小倉 久子)



手賀沼のうなぎちゃん



手賀沼ステーションの新しい展示

国立環境研究所 公開シンポジウム2017 開催報告

毎年開催されるシンポジウムですが、今年は滋賀会場(6月19日)、6月23日 東京会場の2カ所で開催され、東京会場に参加しました。

今年のテーマは、「私たちの安心・安全な環境づくりとは一持続可能性とその課題」です。参加者の中には、千葉県内で環境活動を展開している方のお顔もありました。会場入り口では、水・大気・気候変動~災害等18のポスターセッションがシンポジウム前後に行われました。パネラーには、昨年千葉県環境講座気候変動について講師にお願いした、高橋潔氏、広兼克憲氏のお姿もありました。

シンポジウムは、6つのテーマについて各講師持ち時間30分で発表されました。講師は若い方が主でした。質問コーナーでは元OBの参加者が、細かい内容の質問や若い研究者への応援メッセージなどもあり、家族的な空気も少し感じられました。

私は、6つのシンポジウムの中、「人が去ったそのあとに一無居住化集落から見える人口減少時代の自然環境」について、生物・生態系環境研究センター深澤圭太氏の講演に興味を持ちました。

2050年には日本総人口が1億人を下回り、現在住民がいる地域のうち3~5割の面積で住民が全くいなくなる(無居住化する)と予想されています。広域・長期的な無居住化が自然環境に与える影響を、福島第一原発事故以後の無居住化地域で、哺乳類、鳥類、昆虫類についてモニタリングされました。結果、イノシシなど中大型哺乳類が多く生息し、ウグイスやハナバチ類は多いが、ツバメやクマバチは少ない傾向。生息環境が多様な蝶類では、人家周辺や農地に生息する身近な蝶が減少していたそうです。講師は、人口減少と生物多様性の保全や人と野生動物の軋轢解消を効率にするための研究を進める必要があると結ばれました。

(文責: 桑波田 和子)

第19回 日本水大賞受賞活動発表会に参加して

7月11日に日本科学未来館で行われた「第19回日本水大賞・2017ストックホルム青少年水大賞表彰式及び受賞活動発表会」に参加しました。

日本水大賞は日本水大賞委員会と国土交通省が主催の賞で、大賞（グランプリ）のほか、国土交通大臣賞、環境大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、市民活動賞、国際貢献賞、未来開拓賞（3件）、審査部会特別賞（3件）という賞が設定されており、それぞれの賞にふさわしい内容の活動をした団体が選ばれます。

また、日本ストックホルム青少年水大賞（20歳以下の団体が対象）の受賞者は、ストックホルムで開催される「ストックホルム青少年水大賞」に日本代表として参加する資格が得られます。

今回は、水大賞には136件、青少年水大賞には13件の応募があったそうです。

今年は千葉県のPFI佐原リバー株式会社は国土交通大臣賞を受賞しました。この会社は、「水の郷さわら」（全国で初めての、川の駅と道の駅を併せた施設）をPFI方式で実施している団体です。受賞理由は、PFIという手法のほか、①防災拠点、②水辺活用、③歴史文化交流、④舟運 というキーワードで利根川を活用した地域活性化の活動であるという点です。

注：PFIとは、国等が単独で行っていた公共施設の建設、維持管理、運営等を民間の資金、技術などを活用することで効率的、効果的に公共サービスを提供する事業手法のことです。

そのほか、受賞団体は様々な活動をしており、活動報告を聴いていて、とても勉強になりました。

第20回の日本水大賞の応募は、もう始まっています。10月31日が締め切りです。さあ、ふるってご応募ください。（ちなみに、水大賞はどれも副賞つきです！）

<http://www.japanriver.or.jp/taisyo/no20/download.htm>

（文責 小倉 久子）



エコメッセ2017in ちば実行委員会企画

持続可能な食生活～はじめよう食エコ～

エコメッセ2017in ちばのテーマは、「進め！COOL CHOICE」です。

環境省は2030年までに「COOL CHOICE」を国民運動に！と提唱しています。

エコメッセちばでは、2016年度のテーマを「始めようCOOL CHOICE」としました。2017年度は「かしこい選択」の中に、食を軸にして環境のことを考える場を提供しようと2017年度は、実行委員会企画として「持続可能な食生活～はじめよう食エコ～」に取り組みます。食の視点で環境を見ると多様なつながりに気づきます。そこで、「フードドライブ」の切り口から私たちの暮らし、環境保全、持続可能な地球へと感じてもらいたいと思っています。今の時点では以下のように準備しています。

エコステージ：

①フードドライブってなあに？

フードドライブに取り組んでいる方々に、お聞きします。

エコメッセちば実行委員会

②エコスタイルクッキングとエコレシピの紹介
私のエコレシピを募集した中から、実行委員会がお薦めしたいレシピをエコステージでも紹介。また実行委員会ブースに展示します。

食エコゾーン：

フードドライブ活動している団体、地産地消、安全安心な食など展開している団体等の展示など

実行委員会ブース：

- ①家庭に眠っている食品をお預かりします。
- ②エコレシピの紹介展示⇒“いいね”シール貼りは、来場者が参加
- ③子ども食堂等の活動支援団体紹介及び交流コーナー

3R推進シンポジウム開催：

「食品ロスの削減」をテーマとした千葉県主催のシンポジウムです。午後開催します。

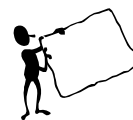
♥♥♥詳細はエコメッセHPをご覧ください。

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 39 —

おききました！ この人・この団体

環境の担い手 NPO法人ちば里山センター

理事長 金親博榮



1 ちば里山センターの発足と運営

第54回全国植樹祭の開催を機に施行された「千葉県里山条例」を具現化し、里山の多面的な機能を引き出すための活動を支援する「中間支援組織」として、「ちば里山センター」は2004年発足しました。

この「里山」とは、森林、田、畑、沼地、集落などの景観を含む広い意味での「農山村の生活に関わる環境全体」を包含するものであり、ひいては、都市を含む国民の生活環境全般を支える活動を担うものです。

現在会員数は、正会員94、賛助会員21なり、全県下に広がる任意団体、NPOに加え、企業、業界団体なども加入し、現在の形となりました。

組織形態としては、2010年には非特定営利活動法人に衣替えしました。各種の法人の中から、NPO法人を選択しましたが、その後の公益活動、法人組織の多様化や、現在のセンターの資金や活動内容からして、より良い答えがあるのかもしれない。

しかし、この一連の法人化を含む活動は、全国でのさきがけとなり、千葉県の成果とされ、国内外からの視察団を受け入れるなど、「SATOYAMA」が国際的な用語となった今、千葉県はそのメッカともなっています。

2 里山の市民活動の特徴

リタイア後の人生と高齢化社会を見つめつつ、仕事の傍ら関わる近所の里山での活動は、健康の増進、地域コミュニティーへのスムーズな仲間入り、気軽な社会奉仕活動として、うってつけです。里山活動は、CO₂の吸収、固定化を通して、地球温暖化への対応としても大きな役割を担うものです。

「他人のため、地域のために働くことが、自分に還ってくる」そんな活動が、「里山活動」なのです。「できる人が、出来る時に、できるだけ」を合言葉に、進めておりますが、その弱点は、若年層、稼ぎ手の年代の参加が、容易ではないことです。

3 国際化の影響と気候変動

人は、森から生まれた生き物と言われ、古代文明は、森林の消滅とともに、消滅したといわれます。絶滅危惧種の半分が里山を生活の場としてお

り、地球温暖化の主因CO₂の増大の原因は化石燃料が3/4、森林破壊が1/4を占める今、森林環境の整備は喫緊の課題です。産業としては、地球規模のボーダーレス化で、生産場所を選べない農林業は、市場原理に、追いやられ、日本では、産業部門としての林業は、消滅同然となってしまいました。

4 「里山の復活」は「体験の復活」

子どもの教育での知育偏重の反省として、「体験」が見直されてきました。里山での「遊び体験」は人格の形成に大きな影響を与え、想定外の事件の多発は、その欠落の結果とも言われます。

5 ちば里山センターの事業

十分な成果を得られない林業、環境行政を補完しようと、県民ぐるみの、環境や生物多様性への意識を醸成する視点から、持続可能なライフスタイルへの転換、地域活性化などにも、意を配る活動に取り組んでいます。

1)「ちば里山新聞」の発行、「安全講習会」は年4回を開催。「ちば里山カレッジ」では、4年間に348名の卒業生を輩出し、各地での里山活動の人材源となっています。

2)「里山シンポジウム」の13年間にわたる開催支援

県下12市で、各市の支援を得て、13回開催。八千代、千葉、いすみ、市原、君津、山武、南房総市では、このシンポジウムを契機として、市を中心とした里山活動団体のネットワーク化の促進という成果を得ています。

6 これからの行動

縷々(述べてきた里山、森林の持つ他面的な機能を回復、増進するため、国民的な支援を「森林環境税」により具体化する動きがあります。所有者である林業家のみでは、実現の困難な面を、市民活動を含む国民総ぐるみで解決したいものです。



運営委員会報告

6月運営委員会

日時 6月14日(水) 18:00~20:55
 場所 千葉市民活動センター

【報告】

- ・平成29年度環境パートナーシップちば総会開催
- ・だより115号印刷発送&講座ちらし発送
- ・千葉市地球温暖化対策地域協議会総会5/22
- ・千葉県情報公開推進会議委員就任
- ・千葉市環境学習プログラム更新
- ・養成講座卒業生チーム(エンわくわく)体験講座開催
- ・ふなばし環境フェア6/10・11

【協議】

- ・だより116号 「美浜マルシェ」
- ・エコmesse2017inちば出展
- ・第6回印旛沼・流域再生大賞への応募検討
- ・千葉県「環境学習応援団」募集検討
- ・いちはら環境フェスタ出展検討(9/23)
- ・創立20周年事業案 ・法人格検討進捗状況
- ・千葉県環境講座進捗状況報告
- ・環境保全活動情報提供依頼 ・その他

7月運営委員会

日時 7月12日(水) 18:00~21:00
 場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・美浜マルシェ出展7/1
- ・県環境講座チラシ発送
- ・ナガエツルノゲイトウ駆除作業6/18
- ・市原環境フェスタ実行委員会6/27
- ・NPO法人準備委員会開催6/28
- ・エコmesse2017inちば(10/9)出展申し込み
- ・印旛沼流域・環境体験フェア(10/29)出展申し込み
- ・その他

【協議】

- ・いちはら環境フェスタ出展9/23
- ・エコmesse出展内容及び担当者
- ・印旛沼流域環境体験フェア出展内容及び担当者
- ・法人格検討進捗状況 ・創立20周年事業案
- ・環境保全活動情報提供依頼 ・千葉市公民館講座
- ・千葉県温暖化防止活動推進員募集
- ・NPO法人せっけんの街理事長変更
 須田さんより道端さんへ
- ・千葉県環境講座進捗状況報告 ・その他

お知らせ

～環境パートナーシップちば20周年記念事業～ 講演会開催

日時：10月9日 14:00~15:30
 会場：幕張メッセ国際会議場 201室
 講演「こどもたちの持続可能な社会に向けて
 親世代ができること」
 講師 高木幹夫氏(日能研代表取締役)
 定員 100人 対象：18歳以上
 参加費 無料
 参加申し込み：info@kanpachiba.com
 主催：環境パートナーシップちば

「平成29年度「第2回いちはら環境フェスタ」

日時：平成29年9月23日(土) 10時~15時
 会場：出光会館(市原市姉崎海岸24-1)
 内容：市民団体・企業・学校・行政など環境に関する情報を、体験・展示等を通して、展示ブースで紹介しています。
 フリーマーケットも同時開催
 参加費：無料
 主催：いちはら環境フェスタ実行委員会・市原市

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団
 業務部環境活動支援課 気付
 TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969
 Eメール：info@kanpachiba.com
 会費納入先：環境パートナーシップちば
 郵便振替口座 00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞ 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
 会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		